

会 議 録

会 議 名	第 2 回山陽小野田市 地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会
開催日時	令和 7 年 2 月 3 日（月） 1 4 時 0 0 分～ 1 5 時 0 0 分
開催場所	山陽小野田市民館 第 1 講義室
出席者 (15名)	九州大学大学院人間環境学研究院 教授 高野 和良 高泊地区社会福祉協議会 会長 磯部 吉秀 埴生地区社会福祉協議会 会長 五十嵐 章彦 山陽ボランティア連絡協議会 委員 岡村 博美 山陽小野田市民生児童委員協議会 会長 森川 繁夫 山陽小野田市福祉員の会連絡協議会 会長 篠原 明子 山陽小野田市自治会連合会 副会長 千々松 正俊 山陽小野田市老人クラブ連合会 会長 石原 克宏 山陽小野田市社会福祉事業団のぞみ園園長 元永 宜徳 山陽小野田市障害者協議会 会長 宮川 力雄 山陽小野田市母子寡婦福祉連合会 副会長 中林 昭子 山陽小野田市母子保健推進協議会 会長 高木 理代 山陽小野田市食生活改善推進協議会 理事 正村 幸子 公募委員 田中 絹枝 公募委員 山岡 好弘
欠 席 者 (1 名)	山陽小野田市子ども・子育て協議会 委員 大岡 豊美
事務担当課 及び職員	山陽小野田市福祉部長 吉岡 忠司 福祉部次長兼高齢福祉課長 尾山 貴子 福祉部次長兼子育て支援課長 石田 恵子 社会福祉課長 和田 英樹 社会福祉課主幹 道元 健太郎 社会福祉課主任主事 山土 江里奈

	山陽小野田市社会福祉協議会 事務局長 光永 仁 山陽小野田市社会福祉協議会 事務局次長 吉岡 智代 山陽小野田市社会福祉協議会地域福祉課長補佐 瀬口 美砂
会議次第	1 開会 2 委員長あいさつ 3 議事 (1) 第二次地域福祉計画・地域福祉活動計画の進捗状況について (2) 関係団体へのヒアリング及び市民アンケートの実施について (3) 今後のスケジュールについて
会議結果	○3について (1) 第二次地域福祉計画・地域福祉活動計画の進捗状況について 事務局が説明を行った。 ○質疑応答 質疑応答は次のとおり。 委員：コロナの影響で人との関りが難しくなった。ボランティアについて、立ち上げ直すのが難しく、併せて高齢化の影響もある。このあたりの変化について、次の計画で考える必要がある。アンケートでこうした問題を取り上げ、深掘りしていく必要があると思う。 事務局：ボランティアの方がだんだん少なくなってきた、若年層へのアプローチの仕方の検討が必要。今までボランティアをされてきた方々についても、継続したい気持ちはあるが、メンバーを増やしていく仕掛け方も一緒になって考えていく必要があると思う。

	委員：ボランティアの数や担い手が減っていることは、団体の代表の方も悩んでいる。団体名や活動内容を周知することが大事だと思う。 委員：社会福祉協議会でボランティア団体の活動内容は把握していると思うが、本当に活動したいと思っている方達に伝えることが大事。活動の場の提供や、情報の提供方法を考えていければ良いと思う。 委員：校区の行事のお手伝いとして、小学校・中学校にボランティアのお願いをしている。子どもの頃から地域の行事に積極的に参加することで、ボランティア精神が育つと思う。 委員：中学校にはボランティアクラブがある。自治会等の行事に中学生が来る、来ないは別としてアクションを起こすことが大事だと思う。 委員：RMOが立ち上がってきたので、みんなで協働することが大事。 RMO主導で、様々な職種の方、地域団体、小中学生も参加するカフェを開催しており、参加人数も増えてきている。そういった場があれば各団体のアピール（出店やチラシ等での周知）をすることもできると思う。 委員：第二次地域福祉計画 p.15 の児童クラブの児童数について、学童クラブ通所条件を満たした数なのか。 事務局：申込者数は実際に行かれない方も含まれていると思う。 （２）関係団体へのヒアリング及び市民アンケートの実施について
--	---

	市及び社会福祉協議会事務局が説明を行った。 ○質疑応答 質疑応答は次のとおり。 【市民アンケートについて】 委員：成年後見制度について、入れるのはよいと思う。エンディングカードについてのアンケートや P R も一緒に入れたらどうか。 事務局：成年後見制度については、高齢福祉課で促進計画の策定年度になっていることもあり追加した。エンディングカードについては、年末から普及啓発をはじめている。 市民アンケートの内容に入れ込むかどうかについては、検討させていただき、別の機会での周知はしっかりと行いたいと思う。 委員：成年後見制度は、福祉に関わる立場以外の方は言葉も知らない方が多いのではないか。 中身をもう一度整理し、改善することが必要だと思う。 委員：成年後見制度のチラシや内容を一緒に同封した方が良いのではないか。 事務局：知らない方も分かりやすいような内容になるように修正していきたいと思う。 委員：二次元コード等を利用する等の工夫をいただきたいと思う。 委員：問 34 について、複数回答可ではなく、2 つまで回答としているのには理由があるのか。 事務局：複数回答可としてしまうと、興味のある方であれば、全部に○をし、優先順位が分からなくなってしまうことがあるため、選択肢を絞って 2
--	---

	つまで回答とした。 委員：そのような意図であれば、問の作成方法として「複数選択可」として、更にそこから「最も重要なことは何ですか」という問にする方法もあるので、検討していただきたい。 委員：市民アンケートについて、対象者や人数はどういう方か。 事務局：18歳以上の3,000人を無作為抽出。年齢、地域を按分して送付する。 【団体アンケートについて】 委員：問3の「耕作放棄地地域」において空家が問題になっている。場所（土地）と建物に分けてほしい。空き地の草刈りの問題や、ねこが住み着いたり等、管理ができていないというのはよく耳にする。 事務局：持ち帰って検討させていただく。 （3）今後のスケジュールについて 事務局が説明を行った。 質疑応答なし ○その他 なし
--	---